

特定母樹等普及促進会議とブロック会議育種分科会・育種情報交換会について

1. はじめに

本稿では、令和6年6月に開催された令和6年度の関東地区特定母樹等普及促進会議と9月に開催された林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会・育種情報交換会の概要について紹介します。

特定母樹等普及促進会議は、間伐等特措法の改正により、特定母樹制度が導入されたことを契機とし、特定母樹等の早期普及に向けた取組を地域において促進するための情報交換及び共同研究の推進を目的とした会議です。

林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会は、都県との連携による林木育種の推進を目的とした林野庁主催の会議で、開催場所はブロック内の各都県持ち回りとなっています（事務局は林木育種センター）。この会議は、育種事業等の研究・事業にかかる取組内容について理解を深めることで、地域の林木育種事業の推進に役立てることを目的としています。

2. 特定母樹等普及促進会議

令和6年6月25日(火)から26日(水)に、静岡県、富士市、日本製紙(株)の協力を得て令和6年度関東地区特定母樹等普及促進会議を開催しました。室内討議は富士市役所大会議室において、現地検討会はスギ特定母樹等展示林（静岡県富士宮市、日本製紙(株)北山社有林）とスギ交配苗試験林（静岡県富士市、富士市有林）において行いました。

室内討議では、関東育種基本区における次世代化戦略、エリートツリー及び特定母樹の選抜の現況と今後の見通し、静岡県内で行われている森林・林業施策と優良種苗安定供給の取組、閉鎖型採種園の導入に向けた取組、富士市における森林林業と取組内容が紹介されました。

スギ特定母樹等展示林は、林木育種センターと日本製紙(株)が協力して設定した日本で初めての官民連携による展示林です。当日は植栽して3成長期目のエリートツリー等の生育状況を見学しました。2年目の平均苗高は、第一世代精英樹(144cm)に対してエリートツリー(168cm)は24cm(約17%)成長が優れていることが紹介されました。

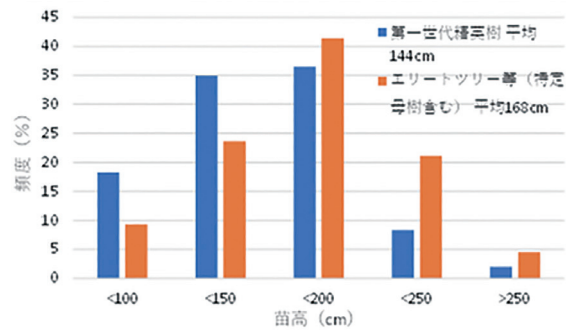


図. 植栽2年目の苗高の頻度分布(実測値)

注) 青：第一世代精英樹(さし木)
橙：エリートツリー等(さし木)

ることが紹介されました。

スギ交配苗試験林(静岡県と林木育種センターの共同試験地)は、植栽後10成長期目となって、植栽されている静岡県選抜の第一世代精英樹やそのF₁を親とした次世代の優良個体を見学しました。今後、特定母樹申請に向けた調査等を進めることが紹介されました。

3. ブロック会議育種分科会・育種情報交換会

令和6年9月19日(木)に令和6年度林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会が開催されました。当初現地検討会を岐阜県で開催する予定でしたが、限られた時間で県内の現地を周遊することは困難なことから、育種分科会後の時間を利用して、現地検討会に代わるものとして育種情報交換会が開催され、岐阜県における育種関係の試験・調査とその成果の活用について説明がありました。

岐阜県は日本でも有数のヒノキの生産地であることから、植栽後の成長や活着率が高いヒノキコンテナ苗を生産するため、肥効期間が長い肥料を倍量使用した育成方法を開発して県内の生産者に技術移転したことや育苗期間を短縮するため芽生えをコンテナ容器に移植する技術、植栽作業の効率化に資するために根鉢を従来よりも大幅に小型化したコンテナ苗の実用化試験等、ヒノキの優良種苗の安定的な生産・普及に向けた取組から得られた有益な成果に関する情報が提供されました。

(育種部 育種第二課 田村 明)